

WESLEY HALL NEWS

Wesley Hall News 第104号 2010年11月22日発行

104TH EDITION NOVEMBER 22, 2010



彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。(マタイ2:9)

宗教センターだより



幼稚園より

アドヴェント礼拝

11/26金 9:40～

12/3金 9:40～

12/10金 9:40～

聖書を学ぶ会

11/30火 9:30～

保護者会クリスマス礼拝

12/13月 10:00～



クリスマス礼拝

12/15水 9:40～



3学期始業礼拝

2011年1/7金 9:40～

幼稚園創立50周年礼拝

1/21金

聖書を学ぶ会

2/25金 9:30～

(教諭 石橋 エリ)



初等部より

感謝祭礼拝

11/22 8:25～8:50

初等部米山記念礼拝堂

説教 小澤 淳一(宗教主任)

アドヴェント・コンサート

11/26金 18:30～

初等部米山記念礼拝堂

オルガニスト 浅井美紀

保護者のためのクリスマス礼拝

12/3金 11:30～12:30



初等部米山記念礼拝堂



(宗教主任 小澤 淳一)



中等部より

クリスマス礼拝

12/17金 14:00～15:30

青山学院講堂

礼拝はページェント形式で行われ、聖歌隊・聖書朗読などあらゆる奉仕が生徒によって進められます。



保護者聖書の会

2011年1/26水 10:50～12:00

西大教室

(宗教主任 西田恵一郎)

キリスト教信仰を、強く、太く伝える

第13代 青山学院院長 山北 宣久 インタビューア 石橋 エリ(幼稚園教諭)

ついで死んで当然だったのです。だから「おまえは、ほんとに命はね、自分で使うものじゃない」と何度も聞かされていた。段々その言葉が大きくなり、牧師として用いてもらえればありがたいと思いました。

石橋 院長室と園児、児童、生徒、学生、保護者の間を縮めるための作戦は？

山北 たくさんありますよ。院長室に来てもらってね、来た度にハンコ押しして、3回になったら景品上げる。そのハンコもただのハンコじゃなくて私の顔のハンコ(笑)。

石橋 青山学院の印象は？

山北 マイルドな性格の素敵な人たちが多くいすね。マイルドの頭文字Mをひっくり返してワイルドにすると更にもっといいと思います。マイルドとワイルド、両面が必要。イエスが「蛇のように賢く、鳩のように素直に」(マタイ10章16節)と言いました。鳩の様な素直さと、蛇のような、悪役を上回るようなものが必要でしょう。キング牧師がクマインド&テンダーハートって言っています。そのクマインドが少し欲しいかな。

石橋 タフマインドとは？

山北 自分にとって苦手だな、あるいは近づき難いと思うようなところにもどんどん出て行き、関係を求めていくということです。これはやはりタフじゃなきゃ出来ない、タフにされていくのだと思います。礼拝とはこのように「出ていくために集う」というのが本意。ウェスレー自身も本当に「出ていった」人じゃなかったでしょうか。

石橋 聖書の中で好きな登場人物は？

山北 コリアト(サムエル記上17章)とか！

ダビデの前に立ちはだかる悪役。この悪を前に、それを凌駕するものがこちら側にあるのかどうか問われます。キリスト教教育というのは愛とか優しくとか教しとかいいますよね。でもやっぱり悪に強くなきゃだめだ。悪のたくらみの前に、自分の甘さを本当に思い知らされる時、神の力無くしては戦えないっていうことを、コリアトの存在は示してくれます。

石橋 青山学院の教育方針の根幹「キリスト教信仰に基づく教育をめざし」についてお考えを聞かせてください。

山北 それは伝道、ミッションです。その意味で、遠慮しながらキリスト教信仰を言うのではなく、もっと確信を持って伝えること、そしてその輪を広げていくことが大切です。宗教センターを軸として信仰における感謝と喜びを発信していけると思います。自信を持って、との言い方は語弊があるけれども、確信を持ちつつ青山の根にあるキリスト教信仰を、強く太く、伝えていきたいと考えます。

石橋 ありがとうございます。



シリーズ・私の教会 file 57

Church of Christ in Japan -- Yokohama Kaigan Church

日本キリスト教会 横浜海岸教会

浅見 真人

本部宗教センター事務局相模原分室



黒船の来航で騒然としていた江戸時代末期。幕府は現在の開港記念広場(現横浜開港資料館所在地)で1854年3月31日に日米和親条約を締結、調印しました。横浜海岸教会はこの開港記念広場の隣に位置し、山下公園・横浜港と連なっています。

日本人のために建てられた我が国で最初のプロテスタント教会である横浜海岸教会。1868年、この地にアメリカ宣教師S.R.ブラウンとJ.H.バラが石造小会堂を建て、在留外国人の礼拝所となり、1872年に「日本基督公会」と呼ばれた日本で最初の日本人のためのプロテスタント教会になりました。

毎週の主日礼拝は、第二次大戦中も1回も欠かすことなく守られてきました。受洗者総数は詳細不明ですが、6,000名を下らないと推計され、青山学院第二代院長本多庸一先生も、草創期の受洗者のひとりに数えられます。

以前の教会堂は関東大震災で倒壊し、現在の会堂(1933年に建てられたもので、全体は、モダンゴシック風にまとめられており、1989年、横浜市の歴史的建造物の認定を受けています。

教会設立出発点となった1872年の初週祈禱会の折に、J.H.バラから

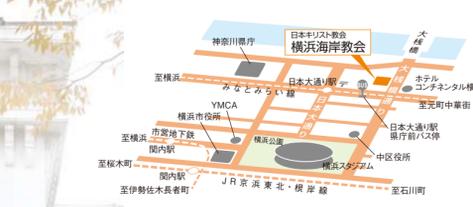
与えられた聖句は、イザヤ書第32章15節でした。庭にはその当時の記念礎石が飾られ、礼拝堂入口左側にある「日本基督横浜海岸教会」の銘板も当時のものです。また教会堂塔上から礼拝の開始を知らせるチャーチベルは、1875年に教会堂を建設した際、メアリー・ブラインから寄贈されたものです。

このように歴史の重みがある教会ですが、決して堅苦しい教会ではありません。日曜学校礼拝(9:00開始)には幼稚園児から大学生まで多くの若者が集められ、元気いっぱい賛美の声を合わせています。わたしたちは、毎日食事を取るように、毎週日曜日に礼拝で説教を聴くことがわたしたちの権利にとって、最も必要であると考えています。現在の横浜海岸教会は、改革主義、長老制をとる「日本キリスト教会」に属しています。



画 高口曜生氏(校友)

横浜海岸教会は、無牧(牧師不在)の期間を経て、この4月から山修平牧師をお迎えしました。10:20からの主日礼拝の出席者の中には、現在、青山学院で学んでいる方や、OB・OGも少なくありません。大規模橋山下公園・中華街・横浜スタジアムといったロケーションにも恵まれていますが、ぜひ一度、わたしたちの教会の礼拝においでください。お待ちしております。



〒231-0021 横浜市中区日本大通8番地
電話：045-201-3740
ホームページ：http://homepage3.nifty.com/yokohamakaignchurch/

CHRISTIANBOOKS & CDs

シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

ジュリエット・ルヴィヴィエ(文) アンヌ・グラヴィエ(絵) くめあつみ(訳)

『かいばおけのまわりで -クリスマスのいのり-』

Prier autour de la crèche

日本キリスト教団出版局 2008年

貫洞早希子

幼稚園 特別教諭



クリスマス。それはイエス様のお誕生を祝う喜ばしい日です。幼稚園では、アドベントの週に入ると園内に少しずつクリスマスの飾りが増えていきます。そしてそれぞれ

の学年の保育室では、子どもたちが作ったアドベントカレンダーでクリスマス礼拝の日を待ちます。2学期最後の日に、年長の子どもたちがそれぞれの役になってページェント(降誕劇)をします。年中や年少の子どもたちは合奏をしたり讃美歌を歌うことで参加をし、みんなでイエス様がお生まれになったことを喜び、クリスマス礼拝の時をご紹介します。これから紹介する絵本は、アドベントやアドベントカレンダー、ツリー、リース、クリスマス当日の出来事、マリア、羊、3人の博士など、クリスマスにまつわることが書かれています。全部で21の項目に分かれており、全てに聖句とそ

の項目を説明した文、祈りがあり、クリスマスの日を待ち望んでいる様子を感じられます。

例えばアドベント。この絵本の中では、ルカによる福音書3章4節「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」の聖句が用いられています。そしてアドベントとは「もうすぐクリスマス！あと4しゅうかん」でイエスさまのおたんじょうび。この4しゅうかんはアドベント。アドベントはやってくること。待つて

る人がやってくる。イエスさまをおむかえするじゅんぴをしよう。おうちのなかをかざりプレゼントを用意しよう。でもいちばんたいせつなのはこころのじゅんぴ。さあ、いそごう！イエスさまをおむかえするためにじぶんのどんどころをかえたいいのだらう。」

最後は、「主なるイエスさま、よろこびとへいわのうちに あなたをおむかえするため こころのじゅんぴをします。クリスマスにむかう道をあかるくてらしてください。アーメン。」というのりでアドベントの項目は終わっています。

優しい言葉で書かれているので分かりやすく、また、クリスマスにまつわる人や物事ひとつひとつに込められた意味を知ることもできます。

今年も1年に1度の大切な日、クリスマスが訪れます。もう一度、クリスマスの出来事、またそれぞれに込められた意味を再確認し、自分なりの言葉で子どもたちにクリスマスのことを伝えていかれたらと思います。

Wesley Hall News 第104号

2010年11月22日発行

発行 青山学院宗務センター 学院宗務部長 嶋田順好

東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL:03-3409-6537(ダイヤルイン)

URL:http://www.aoyamagaakuin.jp/center/index.html

E-mail:agcac@in.aoyama.ac.jp

編集 ウェスレーホールニュース編集委員会

印刷 株式会社 万全社

幼稚園教諭 石橋 エリ

説教

わたしたちの救い主

意外な知らせ

先日、家の近くで犬の散歩をしていた時のことです。前から来た老夫婦が挨拶をして来たので、「会ったことのない人たちだなあ」と思いながらも、反射的に挨拶を返しました。その途端、ちょうど私の真後ろから、「どうもしばらく」という声が聞こえました。実は、老夫婦が挨拶したのは、私の真後ろの人だったのです。あまりのバツの悪さに、連れていた犬を引きずるように、そそくさとその場を後にしました。

ルカによる福音書に拠りますと、イエス・キリスト誕生の知らせを最初に聞いたのは、羊飼いたちでした。その時、羊飼いたちは、ベツレヘム周辺で野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていました。すると、突然、天使が現れ、「あなたがたのために救い主がお生まれになった」と告げたのです。この時、居合わせたのは、羊の群れ以外は、羊飼いたちだけでした。ですから、どんなにおちよこしい羊飼いで、間違いないがありません。他でもない羊飼いたちだけに向かって、天使は救い主の誕生を告げたのです。この天使の言葉を聞いて、羊飼いたちは、とても驚いた



大宮 謙
大学宗教主任

ことでしよう。というのも、当時、羊飼いは、神から与えられたユダヤ社会の基本ルール（律法）を、きっちり守ることが出来ない人たちだと決め付けられて、はじっこに追いやられていたからです。もし救い主誕生の知らせを聞くとすれば、羊飼いたちは、一番後回しにされて当然だと思われていたことでしょう。

ところが、天使は、エルサレムで毎日のように熱心に礼拝をしていた祭司や律法学者たちではなく、意外なことに社会の中で、はじっこに追いやられていた羊飼いたちこそ、最初に現われ、救い主の誕生を告げました。

クリスマスの喜びの知らせは、普段脚光を浴びているエルサレムの「敬虔な人々」にはなくて、ベツレヘム周辺で野宿していた羊飼いたちに、まず伝えられたのです。このように、目立たない、はじっこに追いやられた存在が、神の愛の光によって輝く日、それがクリスマスなのではないでしょうか。

恐れを取り除く愛

孤独や不安を感じる時に、もし「自分たちには救い主がいて助けてくれる、神は自分たちを見捨てていない」と信じる事ができたら、どんなに力付けられることでしょう。「誰も自分のことなんか分かってくれない」と思い詰めている時に、

恐れるな。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。

ルカによる福音書 第2章10、11節

「たとえ人は分かってくれなくとも、神だけは自分のことを分かっていてくれる、自分には救い主と一緒にいてくれる」と思えたならば、どんなに心が温められることでしょうか。

クリスマスの夜、ベツレヘム近くで響いた天使の声は、こう言い換えても良いでしょう。「あなたがたのために救い主がお生まれになった。だから恐れることは何もないのだ。」

この天使の声に、改めて耳を傾けたいと思います。クリスマスは年末の慌ただしい時期にやってくる。街中には、様々な音が溢れかえっています。中には誘惑の音があるかもしれません。あるいは、人を怖がらせたり、縮み上がらせようとする声も聞こえてくるかもしれません。私たちは、「天の声」と、そうでない声とを、しっかり聞き分けたいと思います。天の声からは神の愛が伝わってきます。この神の愛によって、私たちは恐れを取り除かれるのです。

愛を届けるクリスマス

この夏、私は初めてイスラエルを訪れ、ベツレヘムにも足を伸ばしました。生誕教会では、イエス・キリストが生まれたとされる地下の場所に印が付けられ、大勢の人々が長い列になって、その場所で拝む順番を待っている姿が印象的で

した。それにも増して印象に残ったのは、ベツレヘムへの行き帰りの検問所の様子です。エルサレムからベツレヘムまでは、距離的には10キロほどですから、決して遠くはありません。でも、ベツレヘムがパレスチナ自治区の中にあるために、パスポートを見せて出入りするようになるのです。文字通りの隔ての壁が、そこにありました。銃を構えた兵士が検問所について、少しでも不審な動きをする人がいれば、銃を突きつけ、怒鳴り付け、押さえつけようとするのです。

恐れは人を身構えさせ、壁や囲いを作らせます。しかし、イエス・キリストは何とも無防備な赤ん坊の姿で、この世に生まれてくださいました。羊飼いたちは、赤ん坊姿の御子イエスを飼い葉桶の中に見つけて、大喜びしたのでした。自分たちの見聞きしたことが、天使が話したとおりだったからです。「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」

これは、愛に満ち溢れ、人の心を和らげ、勇気と希望を与える言葉です。実に、神は、私たちを愛してください、イエス・キリストを救い主としてお送りくださいました。だからこそ、私たちは、恐れずに、生きていくことができるのです。救い主によって示された神の愛を一人一人が受け取り、また、人々に、この神の愛を届けるクリスマスを迎えましょう。

高等部より

クリスマス礼拝

12/18 土 青山学院講堂
説教 塩谷直也(大学宗教主任)
祝会ゲスト 黄原亮司(東京交響楽団チェリスト)

クリスマス合同コンサート

12/18 土 ガウチャー記念礼拝堂
オルガン演奏、ハンドベル演奏、聖歌隊の合演によるメソピア。

(宗教主任 坂上三男)

女子短大より

クリスマス礼拝

12/8 水 13:00~14:30
青山学院講堂
メッセージ 前之園幸一郎(本学前学長)

クリスマス・チャリティ・チャペル・コンサート

12/20 月 18:00~19:30
女子短期大学礼拝堂
演奏:聖歌隊、ハンドベルクワイア、コスベル(同日、12:30~13:00のランチタイムにもコンサートを開催)



天城・冬の集い

2011年1/28 金 30日
天城山荘
講師 岡田寛雄(青山学院大学名誉教授)

(宗教活動委員 秋富創)

大学より

ランチタイム・コンサート

11/29 月 12:35~13:05
ウェスレー・チャペル
演奏 堀井美和子(大学オルガニスト)

クリスマス礼拝

12/14 土 18:00~
火 ガウチャー記念礼拝堂
説教 及川信(中流教会)

クリスマス礼拝

12/16 土 17:50~
ホ ウェスレー・チャペル
説教 郷家一三(坂戸キリスト教会牧師)

オルガニスト養成講座 受講生発表会

12/20 月 18:15(予定)~
月 ウェスレー・チャペル

2011年2/2 水 17:30(予定)~
水 ガウチャー記念礼拝堂
講座受講の学生によるバイブオルガン発表会です。

オーストラリア・クリスマスファミリー・ホームステイ・プログラム

2011年2/11 金 3/5 土
クリスマスチャン家庭に滞在し、現地で英語研修、ボランティア、日曜日には礼拝出席とキリスト教や異文化の体験をします。また、地元の小中高生とも触れ合いの時があります。

(宗教センター事務局 平野修一)

本部より

クリスマス・ツリー点火祭 ~降誕を待ち望む礼拝

11/26 金 相模原キャンパス16:30~
金 相山キャンパス 17:20~
全学院の礼拝として行います。どうぞご出席ください。

Art Christmas Aoyama

11/26 金 12/17 金
短大 キャンパス 他
クリスマスをテーマとした絵画展です。どなたでも自由においでください。

学院クリスマス礼拝

12/17 金 17:00(予定)~
金 本部礼拝堂

教職員新年礼拝

2011年1/5 水 13:00~
水 ガウチャー記念礼拝堂

(宗教センター事務局 平野修一)

特集 待ち望んだクリスマス

Special Issue : Christmas is coming

Let it be

鈴木法子

幼稚園教諭

学生時代の一時期、フランシスコ会の修道院で聖書の勉強をしていたことがあった。フランシスコ会訳の聖書を司祭と2人で読み、祈り学ぶひとは、若かった私にとって日常とは時間の流れ方の違う時だった。クリスマスも近づいたある勉強会の時。いつもの部屋に入ると、司祭が「Let it be」を口ずさんでいた。「Let it be」という言葉は、神の子の受胎を告げに来た御使いのガブリエルに、マリアが言った言葉である。

When I find myself in times of trouble

Mother Mary comes to me

Speaking words of wisdom,

Let it be

And in my hour of darkness

She is standing right in front of me

Speaking words of wisdom,

Let it be.

Let it be, let it be

歌が終わり、「お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカによる福音書1章38節)というマリア、そしてクリスチャンの態度について話が進んでいくのかと思っていたのだが、司祭は、この曲がビートルズの解散近くで作られたものであり解散への意識という背景がなければ生まれなかったと言われていること、ほかの多くのビートルズの作品と同様にこの歌もレノン=マッカートニーによるものであるが、ポール=マッカートニーは母親を早くに亡くし、その名前はMaryであったことなど…を語った。いつもより時間が長く、修道院を出た時には日はとっぷりと暮れて寒かった。司祭はビートルズファンだったのかもしれない。クリスマスが近づくと「Let it be」を口ずさみたくなる。そして、茶色い修道服を着た司祭のことを思い出す。

私のクリスマス

小澤 真有

初等部3年

11月の終わりに、大学のロータリーのヒマラヤスギの木がクリスマスツリーになって点火されると、クリスマスまであと4週間になります。クリスマスはイエス様がお生まれになった日です。寒くても暗くなっている夕方にクリスマスツリーが点火されるとまわりがぱあっと明るくなって心があたたかくなってきます。礼拝は堂でも、点火祭からクリスマスまでの間に毎週一本ずつ、ろうそくに火がともされていきます。火のともったろうそくがふえていくたびに、楽しみに待っていたクリスマスが近づいてくるのでわくわくします。

そして、12月20日、初等部ではクリスマスさん美礼拝(わいパージェント)をします。パージェントでは初等部生、先生方、お父様、お母様、おじい様、おばあ様、そつぎょう生の方たちが全員でクリスマスをおいわいます。さん美歌を歌って、三年生から六年生で笛の合奏をして、ほくし先生のお話を聞きます。私は三年生になったので今年から笛をふきます。一、二年生だけで歌うさん美歌もあります。

私のお父さんが初等部生だった約30年前から、パージェントは全ぜん変わっていないそうです。イエス様が生まれた日には、クリスマスツリーもケーキもなく、天使から知らせを聞いた羊かいと羊たちが一番初めにおいわい、いかにけりすだけでした。クリスマスにはプレゼントをもらって喜んだりするだけではなくイエス様の誕生を心からおいわい、感しやする事がとても大切だとパージェントを見ているとよくわかります。私のお父さんも同じパージェントを見て、私と同じ気持ちになったのかなと思いました。

パージェントのさい後に「もろ人こぞりて」を全員で歌います。このさん美歌を歌うと元気な気持ちになるので私はとても大きな声で歌います。全員の声を含ませるととても大きな歌声になるので、きっとイエス様も喜んで下さると思います。クリスマス礼拝の後、教室にもどってから私たちはクリスマスケーキをいだけて帰ります。家に帰ってから家族でおいのりをして、おいしいケーキをいだけたく事がうれしくてたまりません。世界中の人がこのうれしい気持ちを同じように持っていると思います。

私たちが毎日元気に学校に通って、おいしい食事を食べられる事を神様に感しやします。イエス様がいらっしやったので、私は神様に出会う事ができました。いつも私たちを見守って下さっているイエス様にありがたうございます。気持ちがあつたわるクリスマスにしたいです。



優しいともしび

浅野 里奈

中等部3年

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」

私の家のクリスマスは、毎年感謝祭に続き、クリスマスカラーに家中を飾りつける事から始まります。アドヴェントクランツに灯りをとると、一年で一番大切な時が始まります。準備が整う頃、まず聞こえてくるのは歌が好きな父の歌声。それに続いて家族みんなで大合唱になるのがお決まりのパターンです。

私は一歳の頃から教会に通い始めました。幼い頃は両親に抱きかかえられて、礼拝やキャロリングをしていたそうです。家族や聖歌隊と共に讃美歌を歌いながら、暗い夜道を歩くさまは、まるで荒れ野を旅しているかのような気分でした。私の目的地は、教会で礼拝を守ることの困難なご年配の方の家でした。そんな時、幼いながらも感じたのは、イエス様を身籠ったマリアとヨセフが荒れ野を旅する中で、灯りのともされた一軒の宿屋を見つけた時、どんなにありがたく温かな気持ちになったであろうか？と言う事でした。

イエス様が「インマヌエル」と呼ばれたことは有名です。聖書の中には、365もの名前が見出されるそうです。1年のうち毎日様々な名前が与えられたという事になります。インマヌエルとは、「神があなたとともにおられる」という意味です。この名付けの意味からも、クリスマスはイエス様の事を考えるべき時、いつも共にいてくださることを感謝する日だと思います。

みなさんにとってクリスマスはどんな時ですか？私にとってクリスマスは、神様の愛を一番身近に感じ、心新たに生まれ変わる時、そしていつも優しい気持ちになれる時のような気がします。

今年も心に灯りをともし、神様がともにいてくださる事を覚え、かけがえのない家族や友達と、讃美歌を大きな声で歌いたいと思います。

さあ、クリスマスの本当の意味を心にとめ、みなさんとイエス様のこ降誕をお祝いいたしましょう。



Endless Road ~the day decided to be a Christian~

堀内 鷹矢

高等部2年

みなさんにとってのクリスマスとはどのようなのでしょうか。教会に行ってみたり、好きな人や家族、または気心の知れた友達と過ごしたり、一人でクリスマスの雰囲気や味わったりなど、どのように過ごすとしても12月25日という日どこか特別な時だとみなさん感じていると思います。自分にとってのクリスマスは1年の中でとても大事な日です。

自分は中学受験をして青山学院中等部に入学しました。もちろん青山学院がキリスト教の学校と知っていたものの、宗教など一切関わらずに生きてきた自分には正直礼拝の時間や聖書の授業など退屈ししかありませんでした。また、キリスト教の学校であるからなのか、「毎週日曜日は教会に行きましょ。」と教えられました。キリスト教のことなど何も知らずに入学し、何も知らないまま教会に足を運んだ自分でしたが、今となってはこの時から神様からのお導きがあったように思います。

教会には友達が数人いたので遊び感覚で通いました。それから、毎週と言えば誇張になりますが、暇な日曜日は教会に通うようになりました。当時キリスト教の知識など全くなかった自分であるにも関わらず、神父様を初め、教会の方々がみんな優しく接してくれて、とても通いやすい場所でした。そんなこんなでちくちく顔を出していた自分だったのですが、友達に「クリスマスのミサは本当に綺麗な日です。一回来てみたら？」と誘われ、多忙だったクリスマスの日予定の合間をみて教会に行ってみました。すると、普段とは全く違い、たくさんのキャンドルが光っていて、とても感動したのを覚えています。そして、この日神父様と話していた際に「クリスチャンとして人生を歩んでみたら？」と言われ、「洗礼を受けてクリスチャンになろう。」と決心しました。そして、イースター(復活日)に洗礼を受け、クリスチャンとしての新たな人生を迎えました。自分にとってクリスマスとは洗礼を受けるきっかけとなった日なのです。

イエス様は自分の人生において「北極星のように動かず、常に自分のことを導き、また見守ってくれている」そんな存在です。みなさん、せっかキリスト教を学べる青山学院に通っているのだから、イエス様がお生まれになったクリスマスなどは教会に行くなり、なにかキリストを身近に感じてみてはいかがでしょうか。



それぞれのクリスマス

荘司 奈々

女子短大教養学科2年

日本ではあまり馴染みのないアドヴェント・クリスマス。私もアドヴェント・クリスマスの存在を初めて知りました。アドヴェントには、「到来」「接近」「出現」などの意味があります。キリスト教においてアドヴェントは、イエスの第一の来臨(降臨)と、第二の来臨(再臨)を祝うクリスマスの大切な行事となっているそうです。アドヴェントとは12月25日の4週間前の日曜日から24日までの期間を指すのでアドヴェント・クリスマスはクリスマスに向けての準備を始める期間に当たります。アドヴェントカレンダーなどというものもあり、子どもたちがカレンダーを自分で作ったり買ってきたりしてカウントダウンを楽しむ国もあるそうです。子どもたちにとってクリスマスはとても大切で楽しみにしているイベントなのですね。私も小さいときにはどんなプレゼントをもらえるだろう？ サンタクロースが私の家に来なかったらどうしよう？とドキドキしながら迎えていたのを思い出しました。

世界中には様々なクリスマスの過ごし方、様式があります。家族でパーティーをしたり、プレゼント交換をしたりするのが一般的なクリスマスの過ごし方であると思います。私の家でも同じように過ごしています。しかし、世界には貧困や紛争が原因でクリスマスを祝うことのできない子どもたちがたくさんいるということを忘れてはなりません。こうして私たちが幸せにクリスマスをお祝いできることを、当たり前のごとだと思てはいけません。幸せにクリスマスをお祝いすることができるのは日本が平和である証なのです。世界中の人が笑顔で、何の争いもなく、幸せなクリスマスを迎えられる日が来ることを祈ります。

青山学院にとってのクリスマス礼拝は、神によって建てられている学校であることを感謝し、神の誕生をお祝いする大切な行事であると思います。クリスマスツリーはとても美しく、本学の生徒だけでなく、毎年学院の外を行き交う一般の方をも魅了していると感じています。点火祭とても感動的な行事だそうなので、ぜひ参加させていただきたいです。クリスマスを待ち遠しく思います。



The Never Ending Christmas

鈴木 亜由美

大学文学部 心理学科4年

「クリスマスにちなんだ内容で文章を書いて欲しい。」そう先生から依頼されたとき、真っ先に頭に浮かんだのは2年前のクリスマスだった。大学2年生、20歳のクリスマスはその後の人生を決定的に変えた1日だった。12月25日。クリスマス当日の洗礼式は今も記憶に鮮やかだ。この日は美しい日で、風が気持ちよく青空がどこまでも広がっていたのを覚えている。緊張とワクワクで前日の夜は眠れなかった。11時から始まる洗礼式より1時間も早く着いてしま

い、入念に自分がスピーチする予定の英文をチェックした。私が通う教会はインターナショナル・チャーチで、大学からほど近い表参道にある。公用語は英語。大学に入学するまでキリスト教に触れたことはなく、海外経験も皆無な私にとって、一生関わることはない場所だと思っていた。礼拝堂に入ると奉仕者が洗礼式の準備を進めていた。最前列にバスター(牧師)と並んで座り、念入りに最後のチェックを行なった。あとは楽しもう、そう言っ

た。私はアメリカらしく軽快に笑った。神様に緊張とワクワクする気持ちを祈っていると、ふいに肩を叩かれた。振り返ると所属する青山キリスト教学生会(通称ACF)のメンバーがいた。1年生のころから、一緒に活動してきた仲間たちだ。もしもACFの存在がなかったら、クリスチャンにならなくて全く考えなかっただろう。学院での日々を共に過ごすなかで、彼らの信仰の姿は私にとって何よりの証だった。「この人たちのようにありたい」という気持ち